

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2993300017		
法人名	医療法人 健和会		
事業所名	グループホームふれあい広陵		
所在地	北葛城郡広陵町三吉28-1		
自己評価作成日	令和4年2月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2993300017-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人Nネット
所在地	奈良市高天町48番地6 森田ビル5階
訪問調査日	令和4年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の近くには讃岐神社、少し足をのばせば竹取公園や馬見丘陵公園があり、周辺には高い建物がない為日当たりと風通しも良く、自然を感じながら生活が送れる場所に立地しています。食事は職員の手作りで、旬の食材や季節を感じられる食材を取り入れバランスの取れた食事を心掛けています。一人ひとりのペースに合わせた生活が送って頂ける様に、個別ケアを大切に支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、広陵町の中部にあり、すぐ近くには竹取公園や菓山古墳、1年中花を楽しむことができる馬見丘陵公園などがある。建物は木造平屋建てで、2ユニットのグループホームである。居間兼食堂は天井も高く広くて開放感があり、テーブル席の他にソファが置かれゆっくりテレビを楽しむことができる。食事は、利用者の希望も聴きながら、職員が旬の食材を使って手作りしている。理念に沿って職員が一丸となって利用者中心の介護に努力している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふれあいの里の理念をグループホームの理念とし、毎朝朝礼時に唱和している。管理者と職員が理念を共有し意識づけられている。	運営法人の理念とふれあいの里の理念、職員の倫理規定を玄関に掲示している。コロナ禍前は、毎日職員で唱和し共有していた。理念に沿って職員が一丸となって利用者中心の介護に努力している。	事業所の介護の思いを多くの方に知っていただくためにも、理念をパンフレット等へ記載が望まれる。また、職員で話し合った事業所独自の目標などもあればさらに良いと思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入させて頂いている。町の広報誌の配布を受けている。少人数の散歩などで地域の方に声を掛けて頂いたりしている。	自治会に加入しているが、普段から自治会の行事が少ない地域で、現在コロナ禍でもありボランティアの訪問もなく地域との交流がほとんどない。コロナが終息すれば、もっと交流を深める予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の相談や、他事業所様からの相談に対して、今の状況や困っていることや考えなどを聞き、ご家族様や相談のあった方に対して寄り添い、関わり方や考えを一緒に考えられるように努める。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で当施設に来て頂いての運営推進会議は実施していたいが、書面にてお知らせしている。	コロナ禍前は、町の介護福祉課職員、自治会長、家族代表などが参加して2か月に1回開催していたが、現在は活動状況の書面による報告のみになっている。感染状況が収まれば、会議を実施する予定である。	家族アンケートによると、外部評価結果を見たことがない、または知らないという方が大半であった。評価結果の確定後、運営推進会議のメンバーとすべての家族に配布することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者様のご様子や、事業所の実情を報告している。困り事やわからない事があった時に直接伺ったりしてアドバイスを頂いたりしている。	町の担当課へは、活動報告等の提出だけでなく、困難事例や分からないことなどを聞いている。町役場からは、コロナワクチン接種の連絡を受けている。生活保護の利用者がおられ、町の担当課と連携して支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修や勉強会で学習し、職員全員に周知し取り組んでいる。問題が発生したときは特に担当職員が中心となり、ご家族様とも相談しながら支援方法を考える。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等の禁止を重要事項説明書や運営規定に記載し、研修を行って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は基本的に施錠しているが、内側からすぐを開けることができる。夜間ベッド下にセンサーマットを置き、職員がすぐに対応できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ステップアップ研修に虐待防止の研修も組み込まれていて、職員に意識づけられている。職員同士で情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見制度を利用されている方がおられました。ステップアップ研修にも組み込まれ、制度の理解を深め活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明し理解をしていただいた上で契約をさせて頂いている。必要に応じて繰り返し説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には出来るだけご家族様に声をかけ、ご意見やご要望を伺い職員間でも運営に反映させて頂いている。	毎月必要物品を家族に届けていただくときに、利用者の状況を伝えると共に、家族の要望を聴いている。面会はコロナ禍であるが、現在は居間の窓越しに会えるようにしている。家族の面会に制限がある中で、より密に連絡をするとともに利用者の写真を送るなどの取り組みがあれば良いと思われる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、多いときは2回、主任が中心となって開催している。自由に意見が言える機会を作り、会議では出た意見を検討し、業務改善等に生かしている。	管理者は、日々の職員と会話の中で、要望等を聴いている。また、連絡ノートを活用して、職員間で情報を共有している。大切なことは毎月の会議で話し合っている。年2回、管理者は職員の個人面談を行って職員の意見や思いを聴く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組織全体で職能給制度を取り入れている。個別に面接を行い向上心を持てるよう働きかけている。またストレスチェックも導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスの導入により、やりがい、向上心をもって働けるようにしている。研修は勤務時間内で受講、受講料の補助等受講しやすいように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内でグループホーム会議を月1回実施し、意見や情報交換、勉強会をしている。周辺地域の施設やグループホームとも交流する機会を作りお互いに相談できる関係を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接では、困っていることや心配なことはないか、ご要望も聞きながら話しやすい雰囲気を作り、安心して入居頂ける様に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談、見学の段階から密に関わり、時間をかけて関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や入居相談時、グループホームでの生活が困難と判断した時は他のサービスを勧めたり相談先の案内をさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりの中で教えて頂く事もたくさんあり、助け合いながら生活が送れる親しみやすい関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にも日々の生活への関わり、協力をお願いして、共に支えていく関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限はなく、コロナ禍ではあるが、窓越しでの面会をして頂いている。話すことができないが、顔だけでも見て頂き安心して頂けるよう努めている。	家族の面会は、コロナ禍前より減っているが、現在は必要物品を持参していただいたとき窓越しに行えるよう支援している。家族が付き添って、利用者のかかりつけ医への受診ができるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	顔馴染みの人がいることにより落ち着かれたり、お互いこいないと心配したりする関係が築けている方もいる。トラブルが発生しそうな時は職員が間に入り良好な関係が築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、ご本人やご家族様の様子を伺い、相談があれば対応ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを伝えられない方に対しても、普段の生活の様子や、会話や表情を観察し、ご家族からの情報などから本人の意向をくみ取り、可能な限り支援できるように努める。	利用開始時には、利用者宅に行って面談を行い、利用者の生活歴や嗜好、好きな活動、事業所での暮らし方の希望などを聴き、アセスメントシートに記録している。日々の生活の中では、食事中や入浴中やなどリラックスして話ができるときに思いや意向を聴いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時や入居後の面会時にご家族や知人様から情報を得るように努めている。本人との日常的な会話からも情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の面接時や入居後の面会時に家族から情報を得るように努めている。本人との日常的な会話からも情報を得るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の介護計画に基づいた介護を実践し記録に残している。ケアプランチェック表を元に3ヶ月ごとに計画の見直し・評価を行っている。	利用者や家族の思いを参考に、身体状況や精神状況から担当職員が課題を見つけ、原案をつくり、ケアマネと一緒に職員間で話し合っって介護計画を作成している。モニタリングを行って、3か月ごとに更新している。	介護計画をより個別的、具体的にするとともに、利用者の生活全般の解決すべき課題だけでなく、生活歴やプラス面からアプローチした笑顔が増えるプランもあればよいと思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護計画に基づいた介護を実践し記録に残している。ケアプランチェック表を元にケアプラン会議で計画の見直し・評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに柔軟に対応でき、ご本人やご家族様のご要望には出来る限り対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	過去にはボランティアによるコンサートや地域の行事に参加していたが、コロナ禍でほぼ実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、ご本人、ご家族に決めていただいている。月2回の往診を受けている。かかりつけ医とは連絡や相談をしながら健康管理を行っている。	事業所の内科の協力医が、月2回訪問診療を行っている。歯科医が随時必要な時に訪問している。利用者個々のかかりつけ医には、家族が付き添って受診している。また、同法人の看護師が週2回訪問し、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回訪問看護師に来て頂き、介護職と連携を取りながら健康管理を行っている。個々に応じた医療・看護につなぐことが出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーを提供し病院関係者とも連絡を取りながら、早期に退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族の意向を聞く機会を持っている。ご本人にとって、より良い居場所選びや方向づけができるように努めている。	利用開始時に、利用者や家族に重度化したときに事業所でできることを説明している。重度化したときは、再度意向を伺っている。今年度は2名の看取りを行ったが、事業所の協力医が交代し、看取り支援の方法を再度構築する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ステップアップ研修で緊急時の対応の研修を受けている。施設でもその時々に応じて訓練や説明を行っており、職員全員が対応できるように周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防火訓練を行っている。運営推進会議でも火災や災害時の避難場所や協力体制の確認もしている。	各ユニット、玄関以外に外に出られる非常口がある。年2回、火災警報ベルを鳴らし、避難訓練を実施している。建物外の倉庫に、長期保存できる水や食料を備蓄している。また、台所はIHクッカーであるが、カセットコンロも用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、プライバシーを確保した関わりができてきているかを職員各々が意識し、互いに声掛けや注意をし合えるようにしている。	利用者の名前は基本的に苗字にさん付で呼んでいるが、名前の方が認識しやすい方は名前でも呼んでいる。入浴介助では、利用者個々のペースでゆっくりしてもらえるよう支援している。一人ひとりの人格を尊重しながら、利用者本位の支援ができるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中でご本人の意思を確認し、無理強いをせずご本人がどうされるのか、動きを待つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課はあり、自由に過ごされている。一人ひとりのペースで過ごされておられ、その人に合わせた個別ケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やその日の気候に合わせた服装をしていただけるように努めている。ヘアスタイルも散髪時などに希望を聞きながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる時や、誕生日の時など利用者様に意見を聞きながら行っている。野菜の皮むきや種取など出来ることを一緒に行い食器の洗浄や、片付け、テーブル拭きなど、自分の役割とと思ってくださる方もいます。	食事は、利用者の希望も聴きながら職員が旬の食材を使って手作りしている。また、週3食は、調理済みの料理を配達してもらい、温めて盛り付け提供している。利用者も準備や片づけをできる範囲で手伝っている。誕生日には、食べたいものを聴いて提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食材が10品目に近づけられる献立で家庭料理を中心に提供している。嚥下状態によりきざみ食やとろみをつけたり、その人の状態に合わせた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に本人の能力に応じた口腔ケアを行いつている。歯科医による往診により、義歯の調整や歯の管理、助言も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレでの排泄を目指している。個別の排泄パターンに合わせて誘導を行いトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	利用者ごとに適切なタイミングの声掛けやトイレ誘導を行ってトイレでの排泄を支援しており、昼間おむつを付けている方はいない。夜間も原則トイレ誘導を行って、自然な排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維を多く含む食材の洗濯や、水分を多く採って頂いたり、体を動かす機会を増やしたりトイレ誘導時の腹部マッサージなどを行い緩下剤使用が最小限に留められるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個室でゆっくりと入浴して頂いている。月曜から土曜まで毎日入浴日を設け、入浴の準備や時間は考慮し、気持ちよく入浴して頂けるように支援している。	浴室には、少し大きめの個人浴槽が置かれている。毎日お風呂を準備し、一人週2回ずつ入ることができるよう支援している。ゆっくり会話を楽しみながら、その方のペースで入浴できるよう支援している。柚子湯をして季節を楽しむことがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度に気を配り、安心して気持ちよく休んでいただけるように支援している。眠れない方にはお話ししたり温かい飲み物を提供したり安心感を持って頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録や服薬情報をファイルに綴り、変更時や注意を必要とする時は申し送りをして、職員が情報を共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生日にはお食事のリクエストがあれば、ご希望のメニューで昼食を提供し、おやつには職員手作りのケーキで皆さんとお祝いしている。季節ごとの壁面飾りや、塗り絵も楽しみながら作っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や気候の良い時期には、散歩に出かけるようにしている。玄関前のベンチで外気浴をしたり少人数で外に出る機会をできるだけ作るようにしている。	コロナ禍前は事業所のすぐ近くにお寺や神社に散歩に出かけたり、1年中花を楽しめる馬見丘陵公園へ車で出かけたりにしていた。今は外出の機会が減ったが、天気の良い日は少人数で散歩に出かけたり、玄関前のベンチで外気浴している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じて、買い物同行の支援をしている。必要時は施設で立て替えて支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや、希望者に対して家族に電話をかける援助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く自然光を上手く取り入れられる構造になっている。窓の開閉・床暖・換気扇・加湿器・空気清浄機を活用し室温・湿度管理を行っている。居間はスペースを広く取り、ゆったりと過ごしていただけるようにしている。	居間兼食堂は天井も高く、天窓もあって広くて開放感がある。そこには、テーブル席の他にソファが置かれ、ゆっくりテレビを楽しむことができる。ウィルス対策も兼ねたおおきな加湿器が置かれている。トイレは、各ユニット3か所設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに食堂部分と居間部分を使い分けて過ごされている。会話されている方・テレビを見ている方・新聞や雑誌を見ている方とそれぞれの動きがあり、好きな場所でご自分のペースで好きなように過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は居心地の良い場所になるように、使い慣れたものや馴染みのあるものを置いたりご本人やご家族と居室内の配置を相談しながら、落ち着いた雰囲気になるように努めている。	居室の扉の横には、表札と飾り棚があり、かわいい置物が飾られている。居室内には、クローゼットと洗面台が設置されている。利用者の使いやすいベッドや椅子、筆筒などが置かれている。窓からは田畑が眺められ、四季の変化を感じることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動スペースを広くし安全に自由に移動ができるように支援している。危険がある場合はセンサーを使用し安全に生活が送れるように工夫している。		